

古語拾遺關係書目

文學博士 加藤 玄智
文學士 星野日子四郎

一 異 本

(1) 古語拾遺(寫)

保安五年(一一二四)閏二月四日の底本に基づける嘉祿元年(一一二五)二月二十三日卜部兼直寫了の奥書を有するもの(所謂卜部本中現存の最古寫本京都吉田子爵家所藏)

(2) 古語拾遺(寫)

釋無貳の跋を有するもの武州金澤稱名寺本

(3) 古語拾遺(寫)

熙允の題名ある武州金澤稱名寺本

(4) 古語拾遺(寫)

元弘四年(一一三三)三月二十六日於金澤稱名寺

(5) 古語拾遺(刊)

嘉祿元年(一一二五)三月二十三日より文明元年(一一四六)六月二十七日に至る多くの奥書を有する寫本に基づくもの(所謂卜部本)

(6) 古語拾遺(寫)

同上本にして更に文明九年(一一七七)正月十二日及び永正十一年(一一五二)三月十九日の奥書を有する寫本に基づくもの

(7) 古語拾遺(寫)

曆仁元年(一一三八)八月十一日及び弘化四年(一一八四)四月の奥書を有する寫本に基づくもの

の(所謂法隆寺本又は曆仁本)

(8) 古語拾遺(寫)

應永年間(一三九四—一四二七)のもの(神道叢書所載)

(9) 古語拾遺(寫)

明應年間(一四九二—一五〇〇) 徳川義直舊藏(神道叢書所載)

(10) 古語拾遺(寫)

天文三年(一五三八)八月二十五日の奥書を有する寫本に基づくもの(所謂天文本)

(11) 定本古語拾遺(刊)

前書に基づける木野戸勝隆の訂正本

(12) 古語拾遺(寫)

正保三年(一六四六)正月卜部兼里及び卜部(萩原)兼從校合の奥書を有するもの

(13) 古語拾遺(寫)

慶安元年(一六四八)十一月榊原忠次の伊勢兩宮獻納本

(14) 校正古語拾遺(刊)

元祿三年(一六九〇)校正明治三年(一八七〇)汲古散人(古川躬行)再訂本

(15) 校正古語拾遺(刊)

元祿九年(一六九六)十一月大伴重堅の跋を有するもの所謂四宮本

(16) 改正古語拾遺(刊)

元祿十六年(一七〇三)孟秋朔旦攝陽一井桐光宣の跋を有するもの

(17) 古語拾遺(寫)

所謂平野本

(18) 古語拾遺及攷異(刊)

寛政三年(一七九一)正月奈佐(日下部)勝臬校勘本(所謂群書類從本)

(19) 古語拾遺(寫)

文政七年(一八二四)十一月校訂者秦公拘(?)の跋を有するもの

(20) 古語拾遺(刊)

安政三年(一八五六)十月十日奈佐(日下部)勝臬の訂本を以て校合せる源信重校本

(21) 新刻古語拾遺(刊)
明治三年(一八七〇)六月訓點者渡邊重石丸の自序を有するもの

序を有するもの

(22) 古訓古語拾遺(刊)

明治六年(一八七三)訓點者永井保賢自序同明治九年(一八七六)二月出版

(23) 訂正古語拾遺(刊)

明治十二年(一八七九)二月木村正辭(欄齋)校本

(24) 校正古語拾遺正訓(刊)

明治十八年(一八八五)八月柴田花守正訓

(25) 古語拾遺(寫)

三輪田元綱校訂(神道叢書所載)

(26) 古語拾遺

林龜臣校訂(神道叢書所載)

(27) 古語拾遺(刊)

木野戸勝隆訂正本を假字交り文に改めしものにして大正六年(一九一七)七月十日出版(日本國粹全書第七輯に收む)

x x x x

二 註解書類

(1) 古語拾遺抄(寫)

釋契沖著(神道叢書所載)

(2) 古語拾遺私考(寫)

大山爲起(葦水)の著す所なり(但本書名は藤堂好澄の葦水翁行狀に出づ)

(3) 古語拾遺言餘抄(刊)

天和二年(一六八二)二月十五日著者尙舍散人龍野熙近の自跋を有す(所謂伊勢本に註を加へたるもの)

(4) 古語拾遺句解(刊)

齋藤齊延編元祿十一年(一六九八)三月三日松下見林の序を有す

(5) 古語拾遺詳註(寫)

著者不明或は曰く松下見林或は曰く壺井鶴翁或は曰く多田稱齋

(6) 古語拾遺示蒙節解(刊)

寶永四年(一七〇七)正月高田白翁著並に自序

- (7) 古語拾遺示蒙節解頭書
 跡部光海著
- (8) 古語拾遺枝折草(寫)
 跡部光海監新松(源)忠義著享保十一年(一七二二)
 六) 伴部安崇跋
- (9) 古語拾遺節解批(寫)
 松岡元雄の著す所享保十六年(一七三二)九月九日寫了の奥書を有す
- (10) 古語拾遺註解(寫)
 伊奈忠嗣抄(龍野熙近中西直方白井自雀軒出口延佳諸氏を祖述す)
- (11) 古語拾遺直解(寫)
 吉見幸和著大正三年(一九一五)新寫
- (12) 古語拾遺途説(寫)
 度會(黒瀬又は藤本)延賢(延寶四年一六七六生寶曆三年一七五三死)註
- (13) 古語拾遺講義標註(刊)
 藤原行盛著(神道叢書所載)
- (14) 古語拾遺本義(寫)
- (15) 多田義俊著(國書解題所載)
 古語拾遺抄略(寫)
 寶曆三年(一七五三)九月十六日吉井元庸著
- (16) 古語拾遺集解
 河村秀根著(續諸家人物志所載)
- (17) 伴信友自筆校註本古語拾遺(寫)
 但し四宮本の刊本を底本とす文化七年(一八一〇)九月二日伴信友の自跋を有す
- (18) 古語拾遺筆録(寫)
 文化十四年(一八一七)五月十五日の日附を有し
 小野(平)高潔の著す所なり
- (19) 古語拾遺略註(寫)
 小野(平)高潔著
- (20) 古語拾遺略解
 岡吉胤著
- (21) 大地主神の一則(刊)
 本居内遠著(本居全集中に收む)
- (22) 古語拾遺新註(寫)
 池邊眞樸著

(23) 壺井註古語拾遺(寫)

文久三年(一八六三)七月二十九日一讀畢の奥書を有す

(24) 磯部昌言纂註古語拾遺(寫)

(25) 標註古語拾遺(刊)

明治八年(一八七五)一月村上忠順著

(26) 古語拾遺私記(寫)

矢野(平)玄道纂明治十四年(一八八一)五月玄道の自跋あり

(27) 古語拾遺講義(刊)

久保季茲著片假字雜り本は明治十六年(一八八三)七月十日平假字雜り本は明治十七年(一八八四)八月四日出版

(28) 頭書評註古語拾遺(刊)

明治十七年(一八八四)三栗中實著

(29) 標註古語拾遺講義(刊)

明治二十三年(一八九〇)十月十五日小田清雄編

(30) 古語拾遺講義(刊)

明治二十四年(一八九一)十月十三日佐伯有義述

(學階試驗科目全書中に收む)

(31) 古語拾遺講義(刊)

明治二十六年(一八九三)一月五日大久保初雄著

(32) 疑齋(寫)

安永二年(二七七三)正月奈佐(口下部)勝泉著

(33) 古語拾遺疑齋辨

本居宣長著寛政十二年(一八〇〇)既成(本居全集中に收む)

(34) 古史徵第一(刊)

平田篤胤著文政元年(一八一八)の序を有す(平田全集中に收む)

(35) 古語拾遺神人名部類(寫)

明治二十二年(一八八九)中西弘滿著

(36) 古語拾遺傳(全十冊)

久古廻屋先生(永井保賢)著述目錄中に出づ

(37) 固本策(刊)

渡邊重石丸著明治二十二年(一八八九)三月二十五日印刷

(38) 新撰姓氏錄考證(刊)

栗田寛著明治三十三年(一九〇〇)二月二十五日出版

Quellen der Shinto Religion, Hamburg, 1 19)

(39) 古語拾遺の異本及註釋書(神道叢書附録中に收む)

「本會の英文古語拾遺研究」近刊

(40) 古語拾遺考證

Contents of the English Translation of the Kogoshui

吉村千秋手稿本未完現存儘(鹿田靜七古典聚目九十六號)

Part I. Introductory notes by the translators

(41) 古語拾遺所載御歲神の祭祀に就きて
本會紀要卷十八星野日子四郎稿大正十一年(一九二二)刊

Chapter I The aim and object of the book
Chapter II The historical value of the book criticized

(42) 古語拾遺の序に據りて國語及び國學の精神を述ぶ(刊)

Chapter III The date of the book Kogoshui examined

上田萬年述大正十三年(一九二四)一月攝政殿下御進講覺書にして同年二月發行雜誌敬神教育資料に收む

Chapter IV The text and its commentaries
Chapter V The book Kogoshui written in acenseiyadive spirit against the then overwhelming influence of Chinese culture

(43) W. G. Aston, Shinto, the Way of the Gods (London, 1905)

Part II The Kogoshui or Glanings from Ancient Stories by Imbe-no-Hironari

(44) K. A. Florenz, Kogoshui oder Gesammelte Reste Alter Geschichten (Die Historischen

Part III Notes
Part IV Bibliography

寄贈書紹介

一書籍

(紹介希望者は一
本を本會に送れ)

横有恒著

○山行

(東京芝區愛宕下町一ノ一
改造社。定價三圓二十錢)

命懸けで山登りのオーソリチー横有恒氏の名著である。氏が山登りに關する豊富なる經驗と、高山登攀中に自然に體得された信仰とに充ち満ち、それをやるに、氏一流の流麗な筆を以てしたものである、日本アルプス探險家の好伴侶たるは勿論、何人も一讀してその所謂山登りなるものか、如何なる意味を有するかを知り置く可きである。尙所々に挿入されたる高山の寫眞は讀者をして實地踏査の感を興さしめる。「板倉勝宣君の死」と題する一章は、如何に同君の死に對する世人の誤解を氷釋せしむものあるかが窺はれる。

○濱口梧陵傳

(非賣品)

本書は一度文豪ハーンの靈筆に由つて、生神ゴヘイとして傳はり、米國の心理學者ラッド博士をしてその來遊の際、態々其郷里に親く車を停めしめた紀州廣村の梧陵濱口儀兵衛氏の傳記である。之れに由つてハーン氏誤聞の點も訂正されてをるし、梧陵の眞面目は能く紙上に躍如たるものがある。我が國の生祠研究者に恰好の資料である。今回梧陵の後繼者濱口擔氏より一本を寄せられた。記者は之を江湖に紹介する光榮を喜ぶ。

○日本書紀編纂千二百年記念展

觀目錄

右は京都大學に於て大正八年五月十日に舉行せられた日本書紀の異本、註釋本の目錄であつて、今回特に其寄贈を得たのである。此に記して其好意を謝す。

文學博士 小柳司氣太著

○道教概論

(東京西大久保四七〇世界文
庫刊行會出版 定價五十錢)

本書は著者が道敎研究の該博なる智識をコンデ

ンスして著されたる名著にして、能くも之丈小なるスペース中にかく首尾一貫したる道敎の鳥瞰圖を與へ、而も何人にも分かり易く叙述されたかは讀者の驚異である。學者と素人とを問はず、一讀すべき良書である。特に西洋に於て目下老子研究熱の頂點に達せる際、東洋人、殊に日本人たるもの斯種の知識は、その常識上よりも必要なるものと考ふ。江湖に推獎す。

法學博士 穗積重遠著

○大詔を拜して

(東京市神田佐久間町十九番地 帝都復興叢書刊行會 定價五十錢)

本書は客年十一月十日に、煥發せられたる精神作興の大詔を拜讀して、穗積法學博士が、その蘊蓄深き法律上の知識から而も極めて平易に、其大御心を體して、災害諸般の精神問題を詳論せられたるものである。此際此秋是非一讀を要する。復興叢書の第一輯として東京市廳の監輯である。

馬渡東京市助役 三田谷醫學博士共述

○復興と兒童問題

(東京市日本橋区石町三丁目 手誠堂發賣 定價五十錢)

本書亦復興叢書の第二輯として、前書と同一の體裁で現はれたもので、等しく東京市社會課の人々の盡力にて刊行せられたものである。震災後に於ける兒童の實況を知りて、小國民の將來に思を致さるゝの士の一讀を奨む。吾人は東京市が、災害後の仕事の山積せる際、斯かる方面にも留意して、拮据勉勵せらるゝ勞を多とするものである。

玲瓏田中久著

○老子の思想

(東京豊町區飯田町四ノ二〇 教文社發行特價一圓八十錢)

本書は老子道德經を誰れにでも分る様、親切に説明したもので、本欄に紹介した小柳博士の道敎と相待つて、其淵源である老子の思想を一應知つて置くに必要な書である。而も道德經の漢文を一讀したからとて、素人にはとても分らない、第一文章か簡古で、加ふるに哲學思想が深邃であるからである。此點に於ては希冀の存

學者ヘラクライトスと相駢んで「晦澁哲學者」と稱せらる可き老子を、斯く迄俗耳に入り易く解明せられた所に本書の特色がある。玲瓏居士眞に其文章に於て玲瓏の名を辱めぬものと謂ふ可きである。

渡邊求著

○中經講義

(東京神田區西小川町一ノ一
文章院 定價八十五錢)

著者嚮に孝經講義を公にせらる、今又忠經講義の著あり。忠孝兩全、忠孝一本の日本に在つては當に然らざる可ならざる所の擧である。特に本書中名士の忠道論を併せ載せられた所は、其用意の周到を窺ふに足るのである。時節柄特に一讀すべき良書である。

千家鐵磨著

○神道の信仰

(名古屋市千種町九反田五番地
大社教分院 定價二十錢)

神道の事なご口にする人と云へば、極頑固な融通のきかない、時代錯誤の人間でなければ、我利的山師行者の迷信鼓吹かと早合點されるのだが、新教育を受けた著者が西洋思想は勿論、

神道以外の諸宗教に對しても公平な態度を以て接し、而かも神道の信仰を二十世紀の民衆に教へんとする所に本書の價値が存する。特に神道を宗教として見ないで、専ら國家の儀式とばかり主張したがる政府迎合の人士に一讀を奨める「我々の故郷」「神道の信仰」との二項を收めて居るが、我々は何處より來つて何には赴くか、我々の生命とは何かといふ様な人生問題を神道の立場で論じてをる。眞に神道の信仰を知る好著である。

ボンソンビー譯

○心の力

(英文非賣品)

本書は中村文學士の成蹊實務學校で出版した「心の力」と云ふ小冊子を、同校教師にして本會々員であるボンソンビー氏の今回英釋を試みられたものである。本書は元來禪宗の修證義に摸して作製せられたもので、かう云ふ方面の知識を西洋に紹介するものとしても、恰好の試みである。

ボンソンビト譯

○悟り方の圖 (英文非寶品)

前書の姉妹篇にして、中村文學士の教育意見に共鳴せる譯者にして、始めて試み得らるゝ事業である。前書と共に是非一讀を要す。

○丸山教祖一代記略 上下二卷

(神奈川県田原郡稲田村丸山教會 本院定價未詳)

富士山信仰を以て終始せる伊藤六郎兵衛教祖の小傳である。徳川時代に現はれた。宗派神道又は教祖神道の信仰内容に接せんとする人は、一讀を要す。

○神經

丸山教會二世伊藤國義教主の謹撰にかゝり、明治三十六年初めて公刊したものである。

藤堂祐範著

○選擇集の書史學的的位置

京都帝大圖書館の司書藤堂氏が、法然上人の選

擇集に就て該博なる、而も敬虔的意見を發表せられたものである。近々二十六頁の小冊子なるも、學者の一讀す可き文字に充ちてをる、因に藤堂氏は法然上人行狀畫圖の豫約出版を企てられ、その見本をも配布せられた、美術趣味より見ても確に賞玩に價する畫圖である總數五百六拾枚、畫聖土佐吉光畢生の丹精に成り、實に法然上人の行狀をピジュアリゼイションに由つて知ることを得るばかりでなく、當時の社會、風俗、建築上參考に資すること多大である、正價百圓特價七十五圓で京都の中外出版株式會社で發行すると云ふ。

法學士 石井銀彌述

○歐洲の近況

本書は財團法人啓明會の第十回講演集であつて詳に戦後歐洲の實況を知ることが出来る。

宮原六郎述

○政治革新と菩薩行 (非寶品)

財團法人清明會の理事兼獨力創立者として教化

事業に勵精せられてをる宮原氏の眞面目なる政治革新意見である。

古谷榮一述

○比喩的形象主義の世界文學論概要

同氏の新世界文字論の摘要である。國語改良の方面に志ある士は一讀して置いて宜い。

古谷榮一著

○人間の自我は錯覺

同氏が錯覺自己説の第一巻として、その概要を筆して世間に問はんとするものである。

石今生著

○露國革命と我思想界 (非賣品)

露國現下の思想と關聯して、猶太人の研究を施したものである。

帶谷傳三郎述

○敬神崇祖忠君愛國私見

右は大阪の特志家帶谷翁が、伊勢神宮を中心として、本問題に關する意見と、その實際に行は

る、氏の事業との大要を述べた所の小冊子にして、廣く有志者に頒たれたものである。

銳行三堅著

○祿行三志翁略傳 (非賣品)

富士講の靈神祿行三志翁の信仰的生活を畫ける小冊子、法月俊郎氏寄贈。

鈴木鷺山著

○普選の十五大缺陷 (非賣品)

平素から變な思想の向ふを張つて、犀利の論鋒當る可からざるものがあるのは、鈴木鷺山氏の議論である。本書も亦その好著の一である。

野本恭八郎著

○最大國難に就て (非賣品)

例の越後長岡の隱士、野本互尊居士の小著である。震災後翁の所感を録して、人に教へんとするものである。

○建議書

在朝鮮京城國井泉氏の震災後精神作興に關する

意見を公にせられたもので、敬聴に價する點がある。

○神都林間學舎之莼

本會々員帶、傳三郎氏の事業で、之を伊勢神宮の側に設けて、夏期小學兒童の精神修養に資せんとするものの案内である。

○思想教育法

尾家 藤藏氏寄贈

二 雜 誌

誠道。教育論叢。幽顯。金光教青年會雜誌。新布教。教育學術界。帝國民。神學研究。現代。雄辯。變態心理。弘道。中央佛教。神道。神廻道。大正公論。聖心會々報。ポストン美術館々報。神道實行教々報。敬神教育資料。みさを。中央史壇。佛都新報。信州婦人。民衆佛教。中學。日本及日本人。國民精神。日本教育。新生。内外教育評論。宗教と人生。茨城農政。ジャパン、マガジン。日本及日本人。代々木。

澁澤子爵頌歌

○鳩巢先生大學詠歌

古は大學の明德新民等の章句を和歌に詠み代へたるものにて通俗教育に資する所多し。木會々員 福島甲子三氏 特別寄贈

會 員 急 告 !!!

會員諸彦御承知の如く、財團法人を以て組織せる本會は會計の收支決算は文部大臣に毎年報告することと相成居候就は同一年度内の會費は是非其年度内に受納を了し度且つ震災の爲振替送金一時停止と相成候結果大正十二年度の會費未納の向も有之候へば本會の振替にて右等會費至急御納入願度候若し然らざる向は或は其中集金郵便差上ぐるやも不被計其節は右手敷料として會費以外に金拾錢増納の事と御承知願度候尙會費は會規に依り特別會員年額金參圓正會員金貳圓(大正十三年度より改正額實施)に御座候是又豫め御含送申上置候也

大正十三年五月

財團法人明治聖德記念學會

振替貯金口座東京貳七〇八壹番